

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391000201		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	グループホーム一色 南		
所在地	愛知県名古屋市中川区下之一色町宮分147-1		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果市町村受理日	平成 25年 2月 12 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年9月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様、ご家族様の希望にそう形で、出来る限りの支援に努めています。自分らしさを保ちながら、各利用者様の個性、能力を発揮できる環境を作り、行事でも四季を感じて頂く為、地域の方やボランティアの方々に来て頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平屋建てで幹線道路から少し離れた住宅地にあるホームは、天井が高く、明るく開放感がある。玄関を中心に左右のユニットには思い思いに過ごせるよう椅子やソファ、和室があり、状況に応じ配置を換えている。七夕、餅つき等毎月季節感のある行事を行い、協同作品の貼り絵がリビングに飾られている。ラジオ体操や軽い手や身体の運動で体力維持に心がけている。運営法人の移管、職員の入れ替わりもあったが、幅広い年代層の職員はチームワークよく2つのユニットを歩き来している。利用者の生活歴を基盤に気持ちを汲み取るコミュニケーションに心がけ、家庭にいるようにゆったりとその人らしい生活の実現を目指している。管理者は職員の声を聞き、課題検討や情報共有で介護の統一に努め、更に地域連携・認知症啓発に向け、コミュニティセンターやホーム内での住民対象の講習会開催でホームへの理解を深めたいと考えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を5つ上げ、施設内に掲示し、毎月の施設会議において管理者と職員は話し合いを行ない、理念を共有し実践につなげている。	グループホームのあるべき姿を表した5項目を開設時より一貫して理念としている。職員は地域密着の重要性を認識し、避難訓練での連携に努めている。職員個々の利用者に寄り添ったケアの実現を目指して管理者は会議で話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、敬老会、運動会への行事参加を行い、施設での行事の参加を呼びかけ、地域の方、学区の小中学校との交流をはかっている。	町内会に加入し、利用者は諸行事に出かけている。ホーム周辺の散歩を日課としていて、帰ってくるとみんなで「ただいま～」と声をかけあっている。剣舞や演歌歌手、詩吟といったボランティアの訪問やホーム行事の案内発信で地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、学区の小中学校との交流を通じて、認知症及びグループホームへの理解を深めてもらう様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、意見交換の場を設けている。そこでの報告内容、意見等は議事録として残し、申し送りや、全体会議、カンファレンスにて職員と話し合い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2か月毎に開催され、ホームからの報告と意見交換が活発に行われている。会議で出た意見に基づき、避難訓練では実際に時間計測を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者の受け入れを行い、担当者と相談を含め常に連絡を密にとっており、施設での状況やケアサービスの取り組みを伝え、アドバイスを頂く等協力関係を築く様に取り組んでいます。	区へはホームの様子や情報交換、手続きで足を運んでいる。制度面の確認や相談事は市とのパイプを築きその都度対応してもらえる関係にある。市主催のイベントや講習会には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、廃止の方向で職員の意識も強くそれに努めているが、状況によっては利用者の事故防止の為に、玄関の施錠をせざるを得ない時もある。	マニュアルを整備し、拘束の弊害を理解している。安全面からやむを得ず使用する場合は家族の了解のもと最低限にとどめる工夫をしている。広い空間では死角もあり、職員配置の状況によっては安全面を考慮し、玄関を施錠することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議及びカンファレンスにおいて、虐待について見過ごされない様に、職員の意識を統一し、報連相の徹底、入浴時、更衣時での観察を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者につきましては、市町村との協力関係において、関係者と話し合い学ぶ機会はあるが、職員全員が活用でき支援できる状況には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際には必ずご家族様に説明を行い、同意を得た上で契約の締結を行っている。利用者、ご家族の不安や疑問については、管理者含めた職員全員で対応する様、申し送り時、全体会議を通じ伝え、対応出来るように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、要望につきましては、家族会、運営推進会議にて意見を聞く機会を設けている。利用者につきましては、日常生活における気づきやコミュニケーションにて、支援させて頂く様に心掛けている。	家族会は年1回開催し、家族は共通の悩みを共有できる場となっている。家族の面会時には主に管理者が対応し、意見の把握に努めている。家族から出された要望や意見は、書きとめ、話し合いや状況確認に努め、家族へ報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、カンファレンスだけでなく、日頃からのコミュニケーションにて、管理者より個々に確認する機会を設け、意見、提案等は確認している。	管理者は日常的に表情や仕事ぶりから職員の個々の気持ちを汲み取り、働きやすい環境づくりや日々のケアの向上に活かしている。研修への希望も取り入れ、質の底上げに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見、提案を含め管理者より代表者に伝え、向上心を持って働ける職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修につきましては、職員個人個人の力量、意見、意思を考慮しながら、研修を受ける機会を設けている。また、同グループ内、他施設への職員研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ、他施設への交流を図り、他施設で学んだ事を実践し、サービスの質を向上させていく様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員の気づきをふまえ、本人の要望に耳を傾け、本人が困っている事、不安を取り除く様、カンファレンス、全体会議において話し合い、職員全員同理解のもと、本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾けながらケアプランを作成し、来所、面会時に家族に説明し、話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望、希望をふまえたサービスを全体会議、カンファレンスにて話し合い、必要としている支援を優先順位を付け、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の人間性を尊重し、性格、出来る事を把握した上で、各利用者に出来る事(食器拭き、洗濯たみ、掃除等)を一緒に行い、利用者との関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては手紙を含めたご利用者の報告を毎月行っている。行事への参加、面会時にはその都度、本人の状況をお伝えし、情報を共有し、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各利用者の状況にもよるが、馴染みの方、場所との関係が築けていない方もいますが、出来る限り馴染みの人、場所の関係が途切れない様、家族に相談し支援に努めています。	友人とカラオケを楽しんだり、家族の協力を得て馴染みの場所へ出かけたりしている。居室に仏壇を置いたり、旅行や家族の写真を飾って関係が途切れない様支援している。家族が年賀状を届けたり、ホーム横の喫茶店は入居後馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の性格を把握し、利用者同士の関係が築ける様、行事、レク等を通じ、支えあえる様な支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者本人の思いや希望、意向にの把握に努めているが、困難な場合は、家族の希望、意向も把握し、カンファレンスにおいて話し合い検討している。	職員は利用者の話を傾聴し、表情や行動にも注意する事で、思いを感じ取れるように努めている。利用者が居心地良く過ごせるように、会議や申し送り時に情報を共有して、話し合いを重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の情報をファイリングし、職員個々で見れる環境を作り、それ以外でもカンファレンス、全体会議にて職員で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ケース記録、業務日誌への記入を行うと同時に、申し送りを朝、夕と口頭で行い、体調面については協力医の相談のもと、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議、カンファレンスにて各職員の意見やアイデアを反映し、3か月ごとの見直し、半年ごとの立て直しを行い、介護計画を作成している。	利用者や家族の思い・希望を聞き、介護計画を作成している。利用者の担当職員を決め、毎月の会議で支援内容について細かく話し合い、3ヶ月毎にカンファレンスを開き見直しがされている。基本的には半年毎の作成とし、変化時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン記録表、ケース記録、業務日誌に記入し、全体会議、申し送り、カンファレンスにて情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応する様、各職員の意見、情報を全職員で共有しながら、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園、小中学校での行事運動会、敬老会への参加、また施設の行事への参加(ブラスバンド演奏、体験実習)を通じ、豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族同意の上、かかりつけ医と365日24時間体制にて対応している。また、本人、家族の希望があった際は、協力医以外の医療機関への受診も支援している。	利用者、家族の同意の上、ホームの協力医をかかりつけ医としている。協力医の往診と看護師の訪問は、それぞれ月2回ある。訪問歯科は毎週往診があり、協力医以外の受診も家族と協力して対応している。24時間の対応ではあるが、協力医が遠くにあることで不安に感じることもある。	管理者は、職員の思いを受け止めており、更に安心できる体制がとれるように検討している。期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員より申し送られた各利用者の情報や気づきを、管理者が訪問看護師に相談し、状況に合わせ適切な対応を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が情報交換、病院関係者との相談を行うなどして、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、「重度化した場合における対応にかかる指針」に同意を得、その都度で本人、家族と話し合いを行い、施設にて出来る事を説明し、地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	入居時に、本人と家族へホームの方針を説明し同意を得ている。重度化した際には、本人や家族の意向を再確認し、ホームで出来る事を説明し、医師の指示を仰ぎ取り組んでいる。看取りを経験している職員もおり、協力して希望に添えるようにしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを使用し、救急対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回避難訓練を実施している。それ以外にも津波、夜間を想定した訓練を行い、消防署職員立会いのもと実施し、協力体制に努めている。	水害時の避難先をホーム近くのマンションと想定し避難訓練を行った。避難時間を計り気付いた事を地域の人と意見交換をしている。管理者は日頃から近隣住民とコミュニケーションを図り協力が得られる様に努めており、訓練を行う事で職員が落ち着いて行動できるように指導している	安全面、迅速に避難することを考え、建物正面の出入り口の整備を検討している。期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議にて話し合いを行い、各利用者の対応について共通の理解の元、各利用者の性格、生活歴を把握しながら、会話の内容、声掛けに注意し、対応している。	職員は、目線の高さを合わせ、一人ひとりの性格に合わせて言葉を選び対応するようにしている。利用者の人格を尊重し、様々な行動も受け入れており、気遣いが感じられる対応が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から、職員、利用者間でのコミュニケーションをはかり、性格面を把握した上で、本人の思いや希望を表して頂ける状況を作ると同時に、利用者の気づきに対応出来る様にし、自己決定できる方には出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者のペースを大切に、希望にそった支援を心掛けているが、その時の状況、安全面を考え、職員の判断を優先する場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには注意し、見守りを基本として支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全体会議、カンファレンスにて一人ひとりの好み、嚥下、咀嚼を考慮しながら、食事内容を検討し、テーブル拭き、下膳等出来る方は一緒に行って居る。	宅配食材を活用し献立にそって調理している。利用者の希望の献立も取り入れ、病状に合わせて工夫している。利用者に米とぎや皮むき等出来る事を行ってもらい、テーブルの配置も全体が見渡せるように考えられている。介助や声かけを行い職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回記入し、栄養、食事量を把握した上で、状況により栄養補給をして頂くなどし、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度口腔ケア指導、歯科往診に来てもらい指導を受けている。また、毎食後口腔ケアを職員見守りにて行い、口腔状態を考慮し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全体会議、カンファレンスにて各利用者の排泄のパターン、習慣を職員全員で把握し、トイレ誘導、見守り、声掛け、介助等含め一人ひとりに合わせた対応にて支援を行っている。	トイレで排泄ができるように支援している。毎月行われる会議では利用者の状態や変化、対応について細部まで話し合い、職員全員で情報を共有して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記録を残し、食事量、水分量を把握した上で、協力医と相談を行い、指示のもと水分摂取、運動、薬等、個々に応じた形で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望がある利用者には希望にそった支援をしている。	入浴時間は午前中に設定されている。毎日の入浴が可能で、職員が利用者に声をかけ入浴してもらっている。車椅子利用でも、安全に浴槽に入ってもらえるようにリフトも設置されている。職員の努力により現在入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドだけでなく、床に布団を敷く等、生活習慣やその時々状況に応じて、気持ちよく眠れる様な支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬の説明書」ファイルに各利用者のお薬説明書とじ込み、いつでも確認できる状況を作っている。処方内容の変更がある度に、申し送りノートを活用し、口頭で職員に伝え、利用者の症状の変化については、報告確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の趣味、生活歴、力を活かし、地域の行事、散歩、花の水まき、計算問題、歌唱、体操等気分転換してもらえる様支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望を把握し、家族に協力して頂き対応している利用者もいるが、体調面、安全面を考慮し一人ひとりの希望にそえない時もある。	毎日散歩に出掛けている。天候や季節によって外出が難しい時は、玄関先にすだれをかけてオープンカフェにして楽しい時間を過ごしてもらう等工夫をしている。家族の協力もあり、希望に添えるように努力をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必ずしも一人ひとりがお金を所持したり、本人の希望にそえる事が出来るわけではないが、状況に応じ対応できる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各利用者の状況によりますが、電話にて不穩になる方、帰宅願望が出る方もいる為、なかなか出来ておりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも四季を感じて頂く様に、作品作りレクにて作った季節感の感じる事が出来る貼り絵を壁に貼ったり、室内温度の設定、音楽をかける等で心地よく過ごせる様な工夫をしている。	建物全体が広々とした造りで開放感がある。日差しが差し込むリビングに和室が設けられ、利用者が落ち着ける場所となっている。行事の写真などが飾られて温かい雰囲気である。丁寧に掃除もされ居心地良く過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南北ホールの行き来、ソファ、和室の活用、庭いじり、ホール内の散歩、自室の活用等、個々の利用者の思いで過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望、家族と相談しながら、思い出のあるもの、馴染みのもの、落ち着くものがあれば持参してもらい、居心地良く過ごせる工夫をしている。	使い慣れたタンスや家族の写真、思い出のある小物などが持ち込まれ、落ち着いて生活できるように工夫している。照明は少し暗く感じた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に考慮しながら、職員の見守り、声掛け、お手伝いのもと、一人ひとりが出来る事を、また自立した生活が送れる様に工夫している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2391000201
事業所名	グループホーム一色

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目：2)	評価
	町内会の回覧板や運営推進会議の場で地域行事の情報を得て、学校での運動会や敬老会に出かけ、子供達の姿をテントの中で観戦したり、ゲームに参加したりしている。演歌歌手や詩吟、剣舞などのボランティアの訪問や家で飼っている犬でのアニマルセラピーは楽しみの一つとなっている。地元中学生のブラスバンド演奏には近隣の人々にも声掛けし、地域住民との交流に努めている。中学生の職場体験は何年も継続しており、こどもたちから心温まる手紙も届いている。施設内の果物獲りを通じての保育園との交流や施設行事の広報活動でホームへの相互理解が増し、更なる地域での基盤づくりが期待される。	○
重点項目②		評価
	5月に第1回を開催してから、2か月毎に開催し、次回は11月を予定している。町内会長、地主さん、民生委員、中川区西部いきいき支援センター職員が参加している。ホームの現状や行事について報告し、地域情報を得たり、地域との連携に向けての避難訓練の方法等活発に意見交換が行われている。議事録では検討事項の結果も記載し、サービス向上へ取り組んでいる。職員には閲覧できるようにし、家族にも配布している。参加者が減少傾向にあり、今後家族や利用者本人の参加も得られるよう開催日時や開催方法等の見直しを検討された。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目：4)	評価
	生活保護関連では区の担当部署へ足を運び、事務処理や情報交換を行っている。グループホーム自体は相談、情報、助言等の協力関係を市担当者と築き、サービス向上に努めており、困難事例解決にも共に取り組める関係にある。また、地域の同業者との関係づくりにも意欲的に取り組みたい意向である。情報を得て市主催の講習会に参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目：6)	評価
	家族会は、家族間の悩みや共有や情報交換に役立っている。面会記録簿があり、家族はよくホームへ足を運んでいる。管理者はその都度状況を伝え、相談や苦情に耳を傾けている。内容を記録し、職員と全体会議や機会を見つけて話し合い、事柄によっては医師に確認し、一つ一つきちんと対応している。行事内容のわかる写真を載せたホームだよりを毎月発行し、職員の気づきを中心とした手紙や行事予定等とともに家族に郵送している。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価				○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。